



# 未来

## 新しいことへ 挑戦する農家たち

6次産業化や種雄牛育成など…  
このまちには独自の取り組みを行う牛農家が多くいます。  
ここでは、新たなことに挑戦する2人を紹介します。

### 多くの人に喜んでもらえる おいしいチーズをつくりたい

**仕事をしながらの作業  
大変だがやりがいも**

2年前から、酪農の傍ら  
チーズの製造を始めまし  
た。搾乳や餌やりなど通常  
業務は欠かせないので、牛  
を養いながらのチーズづく  
りは本当に大変です。しか  
し、同時にやりがいも感じ  
ています。チーズは、温度  
や生乳の状況などで味が変  
わります。初めての取り組  
みなので、日々試行錯誤の  
繰り返しです。

今年、保健所の営業許可  
を取得し販売することにな  
りました。現在は、2種類  
のチーズを作っています  
が、種類・量を増やして、  
多くの人に喜んでもらえる  
おいしいチーズを作りたい  
ですね。



6次産業化に取り組む  
加藤牧場  
かとうのりあき  
**加藤 教昭 さん**

### 県指定の種雄牛「秀正実」 日本一の宮崎牛支える一頭に

口蹄疫で、県内の多くの  
種雄牛がいなくなりまし  
た。種雄牛は県事業団で一  
括管理しており、ほとんどの  
宮崎牛の親牛です。その  
ため、西諸地域でも種雄牛  
の生産に力を入れ始めまし  
た。そこで選ばれたのが「秀  
正実」。この牛を生産でき  
たのは、家族や関係団体な  
どの全面的な協力があつた  
からこそです。

昨年、秀正実の子牛がセ  
リに初めて出品。心配で1  
頭1頭確認しました。立派  
に育っていたので、本当に  
安心しました。秀正実には、  
これから、日本一の宮崎牛  
を支える一頭として活躍し  
続けてほしいですね。



県指定の種雄牛  
「秀正実」の生産者  
くらそのかよこ  
**倉園 香代子 さん**

**西諸のため宮崎のため  
活躍し続けてほしい**

**畜産のまち支えよう  
このまちの誇り胸に**

和牛オリンピックで2  
連覇したときの代表28頭  
のうち10頭は小林の牛  
でした。今回の県共で  
も、枝肉と種牛でグラン  
ドチャンピオンを獲得。  
小林は、名実ともに日本  
一の和牛の産地といえま  
す。また、温水さんや谷  
口さんのような酪農家、  
倉園さんや加藤さんのよ  
うに新しいことに挑戦す  
る人たちがいます。「多  
くの人が支え、応援して  
くれるからこそ」と倉園  
さんが話すように、全国  
に誇れる農家やそれを支  
え、応援する人がいるか  
らこそ、このまちは、「畜  
産のまち」だといえるの  
ではないでしょうか。

「小林の畜産はすごい」  
と市外の知人に話すだけ  
でもいいのです。私たち  
にも関わることとはたく  
さんあるはず。畜産  
のまちの一員として、こ  
のまちの「誇り」を胸に。

# 乳牛

## 県内トップレベルの 小林の酪農家たち

小林は、県内では都城に次ぐ乳牛の生産地。  
共進会でも数多くの輝かしい成績を残しています。  
ここでは、全共に県代表として出場した2人を紹介します。



### カナダで見た世界一の牛を 目指し挑戦し続ける

**20歳から取り組み続け  
今年、初めて全国へ**

高原畜産高校卒業後、2  
年間、酪農の本場カナダに  
修行に行きました。その中  
で、アメリカとカナダの共  
進会でグランプリになった  
世界一ともいえる乳牛の世  
話をする機会がありまし  
た。今まで見たことがない  
大きさと美しさ。「いつか  
こんな牛を育てたい」と思  
い、20歳で小林に帰郷し、  
家業の酪農を継ぎました。  
共進会は、その思いを叶  
えるために取り組んでいま  
す。そして、始めた当初か  
ら「全共に出場したい」と

思っていました。就農して  
22年目の今年、ようやく初  
出場となりました。目標の  
ひとつを達成することがで  
きたのでとてもうれしく  
思っています。

**一流の技術を取り入れ  
いつか世界一の牛を**

全共に出場できてよかつ  
たことのひとつに、全国の  
名だたる農家と知り合えた  
ことがあります。その出会  
いを大切にし、一流の技術  
を自分の中に取り入れてい  
きたいです。そしていつか、  
カナダで見たような牛を育  
てられるように、挑戦し続  
けていきます。



第3部末経産代表  
酪農家  
ぬくみずひろし  
**温水 洋志 さん**

### 5年後に開催される全共で 宮崎の底力を見せたい

**小さなころからの夢  
共進会に挑戦し続ける**

小さなころから牛が大好  
きでした。父親が出場する  
共進会について行つては、  
「いつか自分の牛で出場し  
たい」と牛と父の背中を眺  
めていました。県立農業大  
学校卒業後、20歳で家業を  
継ぎ就農。以来、共進会に  
挑戦し続けています。

**能力を引き出すため  
健康第一に育てている**

牛を育てる上で一番気を  
つけていることは「健康に  
保つこと」。10年前までは  
乳量にこだわり、健康はお

ろそかにしていました。そ  
のため、1回に取れる量は  
今よりも多かつたのです  
が、同時に病気になる牛が  
多数いました。牛の能力を  
100%引き出すためには  
健康が第一。食事や運動に  
気を付けて育てるようにし  
ました。健康的な牛は毛づ  
やもよく、共進会でも戦え  
る牛へと育てています。

今回の全共では、優等を  
獲得したのは岡山山の1頭を  
除き、すべて北海道の牛で  
した。5年後は都市で全  
共が開催されます。そこで、  
優等を獲得し、宮崎の底力  
を見せることがこれからの  
目標です。



第12部経産代表  
酪農家  
たにぐちとしふみ  
**谷口 俊文 さん**